

若槻養護学校 基本方針検討懇談会

第2回発言要旨

1 期 日

- 令和元年7月25日（木） 13:00～15:00

2 内容の概要

- 児童生徒の現状について

【在籍する児童生徒の様態、障がい種の変化について】

- ・ これまでは東長野病院の入院生が中心であったが、今年度、のぞみ部に在籍する児童生徒以外の入院生は現在のところおらず、自宅より登校する通学生が中心になってきている。
- ・ 在籍児童生徒の病気や障がいは、以前のような慢性疾患（喘息や腎臓病など継続した医療が必要な疾病）は少なくなり、精神疾患や発達障がいに伴う二次障がいの児童生徒が増加している。

【教育相談の様子について】

- ・ 教育相談は、中学部への就学を見据えた相談事例、高等部への入学を視野に入れた進路選択を控えた相談事例が多い。
- ・ 本校への転入学には、隣接する東長野病院への受診や入院を経て転入するルートと、地域の医療機関から隣接する病院への紹介を経て転入するルートがある。
- ・ 最近の入院生の傾向として、発達障がいに起因した生活の乱れを整えるための入院が増加している。
- ・ 集団への不適応や不登校に関わる相談が最も多く、長期の不登校など深刻な問題を抱えるケースも見られる。

- 隣接する病院への入院について

【入院する児童生徒の様態の変化】

- ・ 以前は慢性疾患の子どもの入院が多かったが、最近では精神疾患や発達障がいに起因する二次障がいから入院に至るケースが増えている。
- ・ 家庭の養育不全や生活リズムの乱れから、ゲーム障がいや肥満などの身体症状が現れ、入院に至るケースが増加している。

【学習委託】

- ・ 若槻養護学校では、隣接する東長野病院に入院する児童生徒に対して、学習委託¹という形で支援を行っている。
- ・ 学習委託を受ける入院生は、正式な在籍児童生徒でなく入院期間も不定期であることから、対応する職員の加配につながらないのが現状である。
- ・ 生活改善等の目的で入院する児童生徒については、毎日学校に登校し、集団での生活を体験することが治療の一環になっている。

- センターの機能について

【相談窓口】

- ・ 地域の相談窓口としては、北信地域の特別支援学校が中心になる6校ネットの他、各市町村の相談窓口があるが、若槻養護学校の対象となる児童生徒の様態は、視覚や聴覚といった感覚器の障がいではなく、不登校や不適応といった状態像が中心となるため分かりにくい。
- ・ 今後、若槻養護学校への転入学対象としていく児童生徒について、県と協議しながら具体的に整理していく必要がある。

1 若槻養護学校に籍はないが、入院中の学習保障を目的に一定の期間当該学年と一緒に授業を受けるしくみ